

校内研究 小嚙

総合的な学習や探究型学習についての情報です。
校内研究の学びへの参考にしてください。



R7.06.13 1号

フィードバック 1

総合的な学習や探究的な学習では、「フィードバック」が重要と言われます。そこでまず、「評価」と「フィードバック」の違いを、はっきりさせます。「ケーキづくり」で、たとえます。

【評価】

「このケーキは80点。見た目はいいけど、ちょっと焼きが甘いね。」すでに終わったことに点数やランクをつけ、「良い／悪い」と結果を示すことです。

【フィードバック】

「中心のスポンジが少し焼きが足りないかも。次はもう少しオープン時間を長くすると、もっとふんわりするよ。」次にもっと良くなるように、具体的な改善のヒントや気づきを与える行為です。

さらにまとめると、

評価は「試合の結果」。勝ち負け、点数、順位。終わったことの総括。

フィードバックは「次へのステップ」。何が良かったか、何を直せばもっと伸びるかを伝える。

教育では、「評価」も「フィードバック」もどちらも必要です。学びに向かう力・学びを調整しながら学ぼうとする力を付けるには、生徒が「次にどうすればいいか」を考え、主体的に行動できるようにすることが大切です。そのために、「評価」よりフィードバックの質と量が、より重要になります。

1 フィードバック(Feedback) 言葉の意味

「フィードバック(Feedback)」という言葉は、もともと工学分野、特に制御工学の領域で使われ始めた技術用語です。工学分野では、「システムやプロセスにおいて、その出力(結果)に関する情報が入力側に戻され、その情報に基づいてシステムやプロセスの行動が調整されること」を指します。

これが教育や心理学、組織論などの分野に転用され、「ある行為やパフォーマンスの結果について、それを行った本人や組織に対して情報を提供し、今後の改善や調整を促すこと」という意味合いで使われます。具体的には、学習者の行動や成果に対して、良かった点、改善すべき点、次にどうすればよいかといった情報を伝える行為を指します。



2 フィードバックって何？

(1) フィードバックは何のためにする。(目的)

◎「学びへの意欲」を高める。

総合的な学習などでの発表活動やキャリア・パスポートは、単に「やること」ではなく、「考え、表現し、振り返る力」を育む大切な学びのプロセスです。しかし、成果発表や振り返り活動に対して、教員のフィードバックがなく、検印だけで終わってしまうと、生徒は「見られていない」「価値がない」と感じてしまいます。

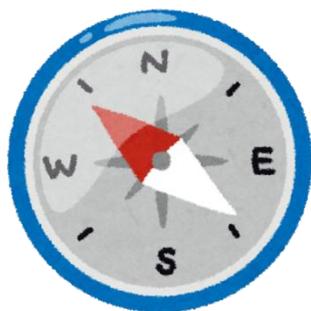
本校での「忘れないぞう」などの生活の振り返りのコメントと同じです。生徒が書いた(担任等へ話した)ことに反応があると、生徒は認められていると感じ、「自己存在感」や「自己重要感」を高め学級への帰属意識が高まります。この過程で、担任などへの信頼も増します。

総合的な学習等でも同様です。フィードバックによって学びへの「承認」と「方向づけ」がされます。それが生徒にとって、「学んでよかった」「次はこうしよう」と思えるきっかけになります。

特に、中学生の時期においては、フィードバックによって非認知能力(「自己肯定感」「学びへの意欲」「自己効力感」)が伸びるとい研究結果も出ています。

(2) フィードバックとは何をする。(方法)

◎学びへの動機付け・ナビゲーションである。



教員のフィードバックは、「評価」や「添削」ではありません。生徒の努力や考えたことを丁寧に受け止め、承認し、次につながる“学びのナビゲーション”をすることです。

指導要領には、「生徒自身が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることも肝要」(中学校指導要領 総合的な学習の時間編 第8章 総合的な学習の時間の評価 第2節)と明記され、学びへの価値付けをすることは重要な教育活動の一環です。とくに成果発表(口頭発表・新聞・レポートなど)——広義のプレゼンテーションです——は、生徒の成長が“見える化”した場であり、そこに教員の言葉が入ることで、「見てもらえた」「伝わった」実感を生徒に芽生えさせます。

効果的なフィードバックにするためには、生徒の学びのプロセスと成果の両方に着目し、今後の成長に繋がる具体的な情報を伝えることです。単に「よくできました」や「頑張ろう」といった抽象的な言葉ではなく、以下の3つの要素を含むことが重要とされています

①具体的な活動と良かった点への承認:

生徒の努力や工夫、個性的な視点などを具体的に言葉にして認め、肯定的な感情を伝えます。

②改善点の明確な提示:

生徒がさらに成長するために、具体的にどのような点に意識を向けると良いかを伝えます。

③改善策への具体的な手立ての提案:

改善点に対して、生徒が次に何をすれば良いかを具体的に提案し、行動に移しやすいヒントを与えます。

「具体的な行動」+「承認」+「次につながる視点」を含めることがポイントです。

(次号に続く)

